

■柏市生きもの多様性プラン（改訂案）に係るパブリックコメント実施結果

1 実施期間

令和4年1月11日（火）から令和4年2月10日（木）まで

2 パブリックコメント提出数

6名より計20件

3 内容及び回答

いただいた御意見の内容及びそれに対する市の考え方は以下のとおりです。

また、御意見の内容は一部原文ではなく要旨として掲載しています。

区分	御意見	市の考え方
生きもの多様性に対する理解の醸成	<p>森の大切さを市民に広報し、理解してもらいたい。</p> <p>柏市に限ったことではないが、ホットポイントになっているエリア以外でも、住宅地に近い小さな森が消失している。住人や土地所有者にとっては落ち葉の清掃や野鳥が多く集まりすぎるなどのデメリットがあると思うが、近くに森があることは、そこで生活する市民にとってメリットもあることを理解してほしい。森の役割として、生物をはぐぐむ、保水力を保つ、温暖化防止、騒音の軽減、防風林、災害時の緩衝地帯、ストレスの解消・癒しの場となるなど、多くの機能がある。</p> <p>森には経済的な役割以上の価値があることへの理解を広げるため、市民に働きかけて意識の向上を図ってもらいたい。学校教育にも近くの森の役割について学ぶ機会を増やしてもらいたい。土地所有者に対しては、税の優遇、市民感謝状の授与など、柏市に貢献していることを感謝する方策を講じてはいかか。</p> <p>かしわ環境ステーションを拠点とし、どうすれば生きもの多様性が保たれるのか、専門家による勉強会があってもいいと思う。</p>	<p>本プランの目的は、市民生活における生きものや自然との関わりとそれが直面する危機への理解を深め、市民等の環境保全活動や生きもの多様性に配慮した行動が広がることを目指しています。</p> <p>そのためにまずは、私たちの身のまわりにある生きもの多様性がどのようなものであるかを知り、御意見のような森の役割や機能等も含め、その重要性を自分事として認識してもらうことが必要と考えています。</p> <p>市域に存在する自然環境や生息する生きもの、保全活動団体等に関する情報を広く市民や事業者等へ発信・共有することを通じ、生きもの多様性の重要性についての理解醸成を図っていきます。</p> <p>また、本プランにおける取り組みの推進にあたっては、市の施設である「かしわ環境ステーション（環境学習研究施設）」を生きもの多様性に関する普及啓発、環境教育、研究、情報発信及び人材交流の拠点として活用していきます。</p> <p>なお、いただいた御意見については関係課でしっかりと情報共有し、必要に応じて会議を開催するなど、具体的な施策を検討する上で参考とさせていただきます。また、庁内の関係部署だけでなく、市民団体等も交えたミーティングを適宜行い、情報交換を進めてまいります。</p>
学習拠点の整備	<p>市民が「柏市生きもの多様性プラン」を体験できる「実践モデル地区」を試験的に指定し、実践を通して、プランの効果や改善点を見直していくのはいかかか。このモデル地区として「下田の杜」を提案したい。</p> <p>【実践モデル地区の利点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 年間を通じて「柏市生きもの多様性プラン」を市民に知ってもらう機会と場所を提供できる。 観察会や調査、保全活動を通じて生物多様性の大切さを実感できる機会を提供する。 新しい情報や他の地区の情報も提供できるようにする。 保全活動に関心をもってくれる市民を増やす。 <p>【下田の杜提案理由】</p> <ol style="list-style-type: none"> 下田の杜は台地、斜面、低地など柏市の原風景である里山の地形と景観がそのまま残っている。 湧水が南、北斜面下に十数か所ある。 保全を目指している5.4haの中に都市緑地、特別緑地保全地区などがある。 40年以上保全活動が継続しており、公有地化された緑地と私有地の緑地が一体的に保全されている。 環境教育を積極的に行っている（小学校、中学校、大学） 歴史文化財は野間土手や古民家、木小屋などがあり、保全も積極的に行っている。 外来植物の駆除作業を行っている。 生きもの調査や湧水調査を継続して行っている。 埋め立てられていた低地に畑、水田、池等を復活させ、冬水田んぼなど生きものに配慮した保全活動を進め、現在多くの生きものを観察できる。 <p>「体験活動が多い小学生は自尊感情が高い高校生に成長する」との文科省の調査報告があり、幼い時期からの自然や文化に関する体験がかなり重要だという事が最近の研究で分かっている。</p> <p>柏市内にはその体験活動ができる自然や文化資源が多数存在している。市内の自然拠点やホットポイント、カシワなどのほか、民有地でも潜在的なポテンシャルを有するところを発見し、地権者に協力を得て自然や文化に関する体験学習を各校が進められるよう活用方策を検討してもらいたい。例えば〇〇小学校の森、〇〇小学校の里など、各校が森や里を自分たちの学習・活動の場とし、四季を通じて自然の移り変わりがわかる体験をしてほしい。これは、将来像の「身のまわりの生きもの多様性を知り、育み、伝えるまち 柏」へ繋がる基礎的事項だと思う。</p> <p>そしてその拠点の特性を生かすカリキュラム、授業計画を具体的に検討してほしい。例えば柏市の自然拠点である「下田の杜」では周辺小学校3校、中学校2校とともに自然や文化について学習している。</p> <p>加えて、児童・生徒が自ら気づき、考え、行動できるように環境教育の重要性を再認識し、そのスキルを磨くことも必要であると思う。</p> <p>柏市南部地域には大津川があり、一昨年までの3年間の生物調査の結果では様々な生き物がいるようだが、一般の市民や子ども達が安全に生き物たちを観察したり、網で取ってみたい場所はほとんど無く、今の小学生でメダカやザリガニを採れる場所を知っている子はほとんどいないと思う。先生方も教科書の写真や教育番組を見せて教える事で手一杯かと思う。</p> <p>昔は小魚やスジエビだけでなく、テナガエビやサワガニ等も採れたと聞いた。生物多様性の大事さを実感するためには子ども達や家族が安全で自然に親しめ、大津川の今昔が学べるような地域環境、学習施設、小学校への教材提供などがあつたら良いと思う。</p>	<p>本プランの実現には、前述のとおり、私たちの身のまわりにある生きもの多様性がどのようなものであるかを知り、その重要性を自分事として認識してもらうことが必要です。そのためには、御意見のようなモデル地区の指定など、身近なところに学習の場や機会が多様な形で存在することが必要と考えます。</p> <p>自然に触れ合いながら環境について学ぶことは、単に知識を得るだけでなく、理解を深め、環境保全活動への関心や意欲を高めるものと認識しており、市としては、柏市自然環境調査において、貴重な動植物の生息地で自然度が高い地域として選定された36箇所のホットポイントを本市の生きもの多様性を特徴づける重要な自然環境エリアとして、市民等と共に重点的な保全や維持管理を進め、自然とのふれあいを通じた体験的な環境教育の「場」としての活用を推進していきたいと考えています。</p> <p>また、市域に存在する自然環境を市民等に身近に感じてもらうためにも、市民等と連携し、柏市自然環境調査を基に発行した冊子「さがせ！柏のしぜん」をはじめ、ホームページや広報紙など、様々な広報媒体を最大限活用し、市民等と連携しながら柏の自然を積極的にPRしていきます。</p> <p>なお、いただいた御意見については関係課でしっかりと情報共有し、必要に応じて会議を開催するなど、具体的な施策を検討する上で参考とさせていただきます。また、庁内の関係部署だけでなく、市民団体等も交えたミーティングを適宜行い、情報交換を進めてまいります。</p>
担い手の確保	<p>生きもの調査には経験が必要で、急に一人前になることはできない。柏市に限らず、ベテランの調査者が高齢化しており、長いスパンで考え、記録を残していくためには、調査者を育てることが必要だと思う。また、生きもの調査に参加する人が増えれば、自然環境に関心がある人を増やすことにつながると思う。</p>	<p>自然環境を保全していくためには、昔から行われてきた保全作業や管理方法を継承していくことが必要と考えていますが、今後の少子高齢化の進展により、自然を維持する担い手が不足し、その技術も十分な継承が行われなくなることが予想されます。</p> <p>こうした中、御意見のとおり、生きもの調査をはじめとした保全活動は教科書的な法則は無く、個々の現場での経験の積み重ねが重要であることから、人的交流を図り、各グループ間の相互の情報交換を深めていくことが必要と考えます。</p> <p>本市には、環境の学習や研究の場として、また、環境保全活動を行う市民や団体の交流の場として利用できる「かしわ環境ステーション（環境学習研究施設）」があり、生きもの多様性に関する普及啓発をはじめ、研究や情報交流に関する機能も合わせ持つ拠点として更なる有効活用を図っていくとともに、担い手づくりの支援の一環として、本拠点を通じた保全活動団体のPR等、情報発信の強化を図っていきます。</p>

自然環境調査の手法	<p>絶滅危惧種や特定外来生物の記録も大切だが、目安の一つとして、指標種を設定することも有意義だと思う。東葛地区の植物指標種としては、コナラ、クヌギ、キクモ、タコウギ、アカバナ、カワチシャ、ワレモコウ、ツリガネニンジンなどが挙げられると思う。指標種を選定して経年変化を追ってほしい。</p>	<p>本プランでは、目標を明確にするための指標の一つとして「種の生息状況」を挙げています。これは、市内のホットポイント36箇所において生息が確認された箇所数別の種の数を指標としており、直近で実施した柏市自然環境調査（2016～2018年度）で設定した指標種の生息結果を現況値として示しています。</p> <p>今回の調査では、生息が確認された生きものの生息状況の経年変化を追えるようなモニタリングシステムの構築など、しっかりと経年変化を把握できる調査手法に基づき実施し、蓄積された情報を関係機関と共有・発信しながら生きもの多様性の保全の取り組みに活用していきます。</p>
生きものリスト	<p>リストに入っていない生物種があったので掲載してほしい（クマネズミ、タヌキ、オオタカ、コウノトリ、ウグイス、イワツバメ、スズメ、ヤモリ、メダカ、ギンヤンマ、アキアカネ、トノサマバツタ、モンシロチョウ、モンキチョウ、シジミチョウ、アオスジアゲハ、クロアゲハ）。</p>	<p>本プラン資料編の「人里の生きもの」リストに掲載されている種は、市域で生息が確認されている生きものではなく、以前は市内でよく見かけた生きもので最近見ることが少なくなった生きものをリスト化したものです。本リスト及びレッドリストへ掲載されている種は、本市における希少種としての保全に取り組んでいきます。</p>
生活排水対策	<p>生活排水対策について、どの程度の件数が単独浄化槽で、単独浄化槽から合併浄化槽への転換促進や浄化槽の適切な維持管理をどのように行うかなど、具体的な計画や進捗状況が分かればありがたい。</p> <p>理由としては、柏ビレジ水辺公園の調整池で最近アオコの発生がひどくなっており、2015年から下水道管理部署に水質改善をお願いし、コンサルタント会社による調査の結果、アオコ発生の主な原因は底泥と水中に含まれる窒素・リンによることがわかっているが、この窒素・リンはもともと家庭排水の流入によるものである。柏ビレジ地区では大雨の時には隣接する雨水管が流入する排水路（A水路）から越流し、また下流の調整池からも大雨の時B水路を通じて逆流する。付近が市街化調整区域となっており、このあたりの浄化槽排水が調整池に流れ込んでいるほか、大室地区の浄化槽排水がA水路に流れ込んでいる。大室地区は最近市街化区域になったが、下水道化はなかなか進まないと思う。</p> <p>また、雨水管からの流入量が多いため、地下水が相当量入っていると思われる。近辺の地下水の水質測定をしたところ、窒素・リンがとても高く、これは窒素肥料によるものなのか、空気中の排気ガスなどによる窒素に由来するものなのか、環境の悪化が懸念される。柏市単独では難しいと思うが、肥料の使用量を減らしたり、車の使用量を減らすことも啓発してほしい。</p>	<p>本市の生活排水対策については、「生活排水処理基本計画」に基づき、下水道整備の推進や下水道未整備地域における浄化槽事業を通じ、生活排水の適正処理に取り組んでいます。</p> <p>浄化槽事業における主な事務事業としては、御意見のとおり、合併処理浄化槽への転換促進や浄化槽の適正管理指導などがありますが、これらの業務を有効かつ効率的に進めるために、現在、浄化槽台帳の整備（浄化槽の設置情報、下水道接続情報、清掃実績情報及び検査受検情報等の実態把握）に取り組んでいます。これらをもとに現状分析を行い、効果的な対策を検討していきます。</p> <p>また、本市における公共下水道事業や浄化槽事業の概況については、「柏市下水道事業年報」や「柏市清掃事業概要」に掲載し、市のホームページにて公表しています。</p> <p>なお、いただいた御意見については関係課でしっかりと情報共有し、必要に応じて会議を開催するなど、具体的な施策を検討する上で参考とさせていただきます。また、庁内の関係部署だけでなく、市民団体等も交えたミーティングを適宜行い、情報交換を進めてまいります。</p>
緑地保全・緑化推進	<p>P23 コラム「マチナカの樹林が消えていく理由」、P32コラム「絶滅を引き起こすスパイラル」はなるほどと思うが、遺産相続に伴う林地の減少が最も大きな理由ではないか。</p> <p>土地の遺産相続により税金が払えずに森林地を手放したということ聞いた。また米の値下がりにより農家が農業を継続できなくなったことが緑地としての農地の減少につながっていると思う。柏市だけでは解決できない問題だが、農家に対しては直接支払いを強化するような政策、また、遺産相続の際には森林地の税金を免除し、放棄されて荒廃することで近隣から苦情が出ないよう管理も考慮するようにしなければ絶滅は止まらないと思う。どこの自治体も同じ悩みはあるはずなので連携できないか。国に対し、緑地保全に関する要望（遺産相続時の税金の免除）をしてほしい。</p> <p>埼玉県にある産業廃棄物処理会社が、かつて荒廃した近隣の雑木林を生物多様性の森に再生したという例があるので参考にしてほしい。</p> <p>柏自然ウォッチャーズに参加し、いくつかのホットスポットの調査に携わっているが、倒木の処理に関して、なかなか市にお願いしてもやってもらえないことがある。また、何か所かの森では、木が育ちすぎて暗くなり、咲くはずの花が咲かなくなったりしている。里山の維持・保護のためにもっと予算を使うようお願いしたい。その場合、専門家に依頼して、生態系を大切にしたい森づくりをお願いしたい。</p> <p>一定の大きさ以上の樹木を保護する条例があるにも関わらず、宅地開発に伴って次々と樹木が切り倒されている。申請しないと保護されないシステムが伐採を加速させているのではないか。宅地開発事業者にとっては都合だが、一度切り倒してしまえば、植樹したとしても成長するまで何年もかかる。さらに「切り倒すだけで植林しない（義務がない）」のは問題がある。立ち木一本が年間に吸収するCO2の量を考えると、この問題は大きいと思う。環境審議会の委員に開発事業者がいたほうがよいのではないか。</p> <p>生態系はピラミッド状のだるま落としのようなもので、何千万という種の中の1つが欠けるだけで、全体に大きな影響があるかもしれない。知らないうちに生態系ピラミッドのバランスが崩れているかもしれないという認識をもっといただきたい。</p> <p>大青田湿地について、柏市の北端に位置し、市民の関心が薄い地区ではないかと思う。水田が耕作されなくなってから年月が経ち、樹木も入り込んでいるため、里山として蘇らせるのは難しい。例えば、東京理科大学理窓会記念自然公園の中の耕作放棄地は、専門家の指導や、多くの人の取組のおかげで小さな池と水田が蘇った。大青田湿地でも、観察会を開いたり、里山活動団体を募るなど、市も応援してほしい。</p> <p>大青田の森について、東葛地区の中でも有数の広さだと思う。柏市の市街地にも近く、まとまった平地の森が残っていること自体が貴重なことだと思う。人の手が入り、遊歩道などが整備されれば、自然公園として活用できるのではないか。今は地球温暖化防止を世界や国でも考えている時代だが、身近な森を守るところから始めてはどうかと思う。</p> <p>「柏市緑を守り育てる条例」及び「柏市緑化指導要綱」等と開発行為の規制・指導がうまく連携しているのか疑問。今の開発行為の規制、指導では宅地内の緑の再生・確保に関する指導が足りない、弱いのではないかと思う。庭に少しでも草木があれば虫や鳥が飛んでくる。市内各地で樹林が伐採され宅地開発が進んでいる。雑草が生えないようにするためなのか、庭の大部分が舗装され、植物が一本もない宅地が開発されている。開発における保全も大事だが、開発したところに自然を再生することも重要だと思う。美しい街づくりの観点からも、生物の多様性の観点からも新規開発地の緑（ピオトープ等多様な自然の再生）や宅地の緑を増やす、自然再生の施策を検討してほしい。</p>	<p>本市は、一級河川である利根川をはじめ、利根運河、手賀沼という巨大な水資源が存在し、その周辺には樹林地や水田などにより形成された谷津や、下総台地に点在する社寺林や屋敷林、農地などを形成する優れた緑が分布しています。</p> <p>こうした自然は、過去の世代から現在の世代に引き継がれてきたように、将来の世代に継承されるべきものであり、それを受け継いでいくためには、私たちが生きていく上で大切なこの自然環境を、一人ひとりが環境保全の意識を持ち、市民等と力を合わせて守っていくことが必要と考えています。</p> <p>私有地の森の保全や税制などの問題は柏市だけで解決できない非常に難しい問題ではありますが、関係部署と情報を共有し、具体的な施策を検討していくとともに、本プランを通じ、市民等との連携を図りながら、本市の生きもの多様性を支える水辺や緑の保全に取り組んでいきます。</p>
維持管理の方法	<p>大室地区利根川周囲堤（令和2年度）と大青田利根運河の土手（令和3年度）において、草刈りが年2回だったのが3回になり、いつも見られた花が見られなくなった。管理者に対し、草刈りは根元から刈り取らないよう、また、回数を減らすようお願いしていただきたい。また、刈り取った草は取り除いていただきたい。堆肥にすれば良いものができると思う。</p>	<p>いただいた御意見について関係機関と共有いたします。</p>
かしわ環境ステーションの強化	<p>かしわ環境ステーションの活動を強化するためには、専従職員の雇用が必要ではないかと思う。</p>	<p>当施設における今後の事業展開を検討していく上で参考とさせていただきます。</p>
その他	<p>里山活動協定や斜面林保全する仕組みの検討、里山整備の担い手育成などに取り組まれていることに敬意を表したい。</p> <p>柏市生きもの多様性プラン（改訂案）は目標がしっかりしていて素晴らしいと思う。特に、市民との連携をしっかりとりえており、市民の理解が生物多様性の維持にとって必要であることがわかる。</p>	<p>本プランを通じ、市民等の生きもの多様性に対する意識や行動を高め、環境保全活動や生きもの多様性に配慮した行動が広がることを目指していきます。</p>